

南空知支部隊へ

近隣支部隊応援出動

今シーズンは全国各地で記録的寒波が次々に襲来している。昨年12月16日～19日には関越道の新潟、群馬の県境付近で一時2100台の車が最大52時間立ち往生した。更に年が明け7日から9日にかけて次の寒波が北日本や東日本の日本海側を通過し、秋田県八森では最大瞬間風速42・4㍎の風速、新潟県高田では24時間の降雪量が1・03㍎と、共に過去最高を記録した。

一方、道内でもこうした寒気の影響を受け昨年12月、岩見沢市では観測史上最多の積雪を記録し累計では450㍎となった。また、隣接する三笠市では岩見沢市を上回る降雪となり、12月累計降雪量は70㍎となった。こうした事から1月8日、急きよ南空知支部隊（寺澤信彦隊長）へ三笠市社会福祉協議会（以下、社協）から、独居老人宅や生活困難者宅への除排雪の要請が入った。これは災救助信等でも既報してきた通り、20数年前よりこの地区で冬季訓練として社協と連携を取って除排雪作業を実施してきたことが、この度の要請に至った経緯である。

支部隊ではこれを受けて、例年実施

災救助信

令和3年
2月1日
第21号

発行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

逐次発行



すっぽり住宅を飲み込んだ豪雪。どこから手をつけよう。

している訓練の他に出動を検討。但し支部隊だけではこの豪雪に対して限界もあり、近隣支部隊派遣の要望が教区隊にあった。早速、教区隊では災害対策委員長の西垣教区長と相談し出動可能な近隣支部長と連絡を取って三笠市への応援出動を決定した。

宣誓
我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。

1月17日、午前9時半三笠市社協に集合した一同は作業開始にあたり三笠市社協上田直樹事務局長、教区災救援隊寺澤副隊長（兼南空知隊長）より挨拶、作業説明を受け二班に分かれて現場へと向かった。

今回出動した隊員は、南空知支部隊10名、室蘭支部隊2名、札幌中南支部隊2名、千恵広支部隊3名、日高支部隊2名、空知支部隊2名、天龍支部隊1名、計22名（教区スタッフ含む）他に社協から3名の合計25名で作業にあたった。

現場は想像を遙かに超える積雪で、長年この地で作業を行ってきた隊員達も、あまりの多さに驚きを隠せなかった。日高支部隊から応援出動した吉田正徳隊長は「只々雪の多さに驚きました。よくこうした中で住民の方は生活をされ又、支部の方々は毎年こうしたひのきしんを続けられている姿、学ばせてもらい感激しました。」と語ってくれた。また、窓や玄関をも塞ぐ勢いで積もった民家に住む年配女性は、「おかげでとても明るくなりました。これで安心して住むことができます。」と隊員達に感謝を伝えた。

この度の使用機材も多く、スコップ、

スノーダンプは本より、軽トラック、ロータリー除雪機3台、加えて支部伝統の手作りスノーシューター(プラ波板をつなぎ屋根から雪を滑らせる)等を駆使して作業を行った。

この日、総勢25名で総力をあげて作業出来た件数は4軒。いかに多くの雪だったかを物語っている。こうした除排雪を通し令和1年11月に出動した台風19号被災地(いわき市、鹿沼市)での汚泥除去も思うように進まなかったことが思い出される。

解隊式では改めて三笠市社協上田事務局長より感謝の言葉をいただき解散となった。

南空知支部ではこの後、1月31日には岩見沢市内の教会除排雪、2月1日には再び三笠市社協の要請を受け除排雪を行う予定となっている。



解隊式にて。左端が三笠市社協の上田事務局長。



安全を第一に作業を進める。

この日、天気予報とは打って変わり雪も風もなく穏やかな日の中作業が出来、事故や怪我もなく、良い汗をかいて勇んで作業が出来た事、皆の喜びとなった。

この日、天気予報とは打って変わり雪も風もなく穏やかな日の中作業が出来、事故や怪我もなく、良い汗をかいて勇んで作業が出来た事、皆の喜びとなった。

1月30日、富良野支部隊(坂本雄大隊長)でも上富良野町社協と連携し住宅2軒の除排雪作業を実施した。支部隊参加者は7名。

富良野支部隊

今後の各隊予定

天龍支部隊
2月19〜20日 深川市除排雪
いずれも雨龍大教会集合

空知支部隊
作業箇所が膨大のため個々に対応

その他支部隊
未定



勢揃いした富良野支部隊員。感染対策も万全です。